

体験就労プログラムの意義見える化調査2024

調査報告書

首都圏若者
サポート
ネットワーク

首都圏若者サポートネットワーク
就労キャリアワーキンググループ

2024年10月

首都圏若者サポートネットワーク 体験就労プログラム

当プログラムは2018年度に東京でスタートし、2022年度から埼玉、神奈川でも実施しています。

体験は5日間（1日5～7時間程度）
ひとり3か所まで（5日×3か所）

【対象者】

- 東京、埼玉、神奈川の自立援助ホーム職員が関わる、概ね30歳までの若者
- 東京では社会的養護自立支援拠点事業、フォスティング機関の支援者が関わる若者も

【特徴】

1. 5日間の体験就労を終了すると生活補助費を本人に支給します
2. コーディネーターが本人・施設職員と受入れ事業所の間に入って、それぞれの不安を減らします
3. 生協やワーカーズコープなど協同組合（助け合いの組織）の事業所で体験

【運営主体】

首都圏若者サポートネットワーク 就労キャリア ワーキンググループ

【財源】

東京 ソーシャルエンジェルファンド（東京）
 パルシステム共済連「ささえあい基金」（埼玉・神奈川）
 首都圏若者サポートネットワーク 若者おうえん基金



調査の概要

目的 首都圏若サポ体験就労プログラムに関する次のことを明らかにする

- ①どのような前向きな変化を生み出したか
- ②プログラムのどの部分、機能が有意義であったのか
- ③事業継続、改善のための課題

対象 2023年4月～2024年7月の体験参加者本人・伴走支援者・受入事業所担当者

【当プログラムの対象】

東京は自立援助ホーム、アフターケア事業所、フォスタリング機関の職員が伴走支援する若者
埼玉・神奈川は自立援助ホームのみ

期間 2024年8月

方法 WEBアンケートフォームによる配布・回収、本人には伴走支援者経由で配布

内容	本人	伴走支援者	受入事業所担当者
	A.自己理解 B.変化 C.就労に必要なスキルや知識（学び） D.おすすめ度とおすすめポイント	A.就労支援体制 B.体験就労への期待と当プログラムについて C.参加者本人について	A.受入れて良かったこと B.改善すべき点

配布数・回収率

	配布数				回収数				回収率 (%)			
	東京	埼玉	神奈川	合計	東京	埼玉	神奈川	合計	東京	埼玉	神奈川	合計
本人*	20	8	12	40	11	1	6	18	55.0	12.5	50.0	45.0
伴走 支援者	12	7	8	27	9	4	8	21	75.0	57.1	100.0	77.8
受入れ 事業所	19	7	8	34	15	5	8	28	78.9	71.4	100.0	82.4

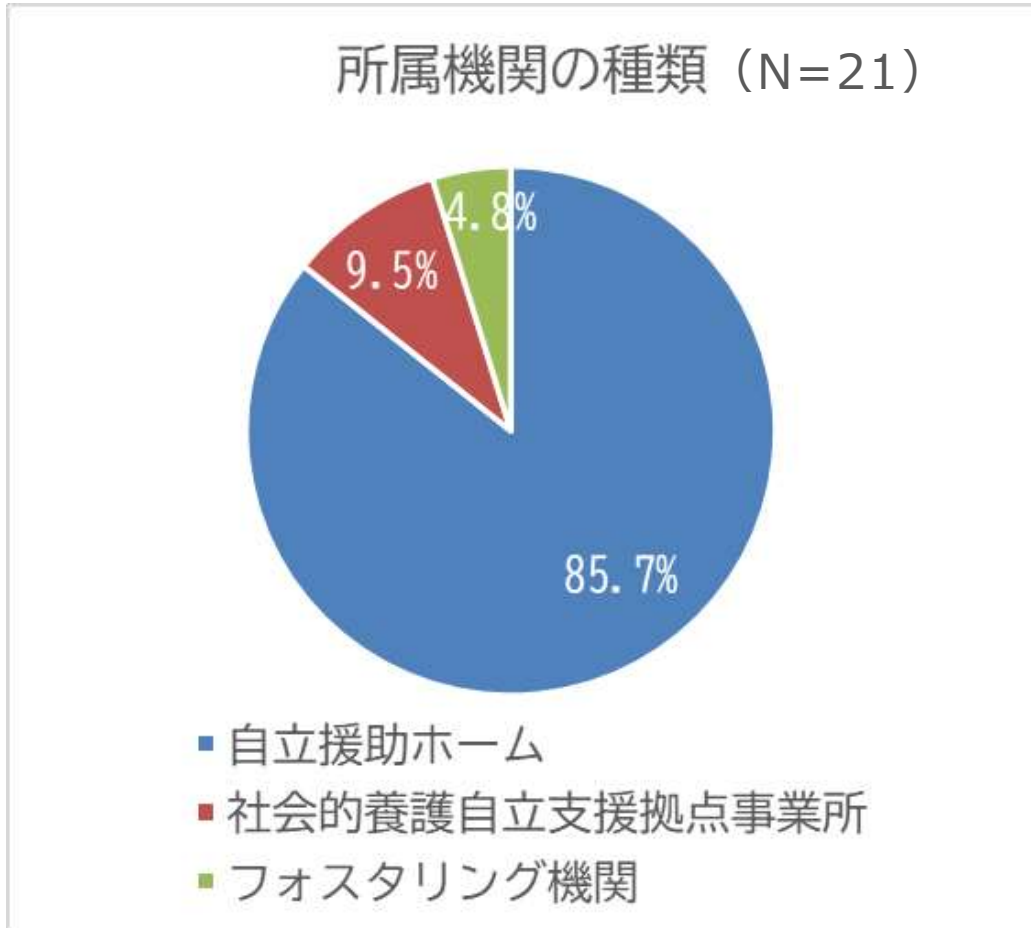
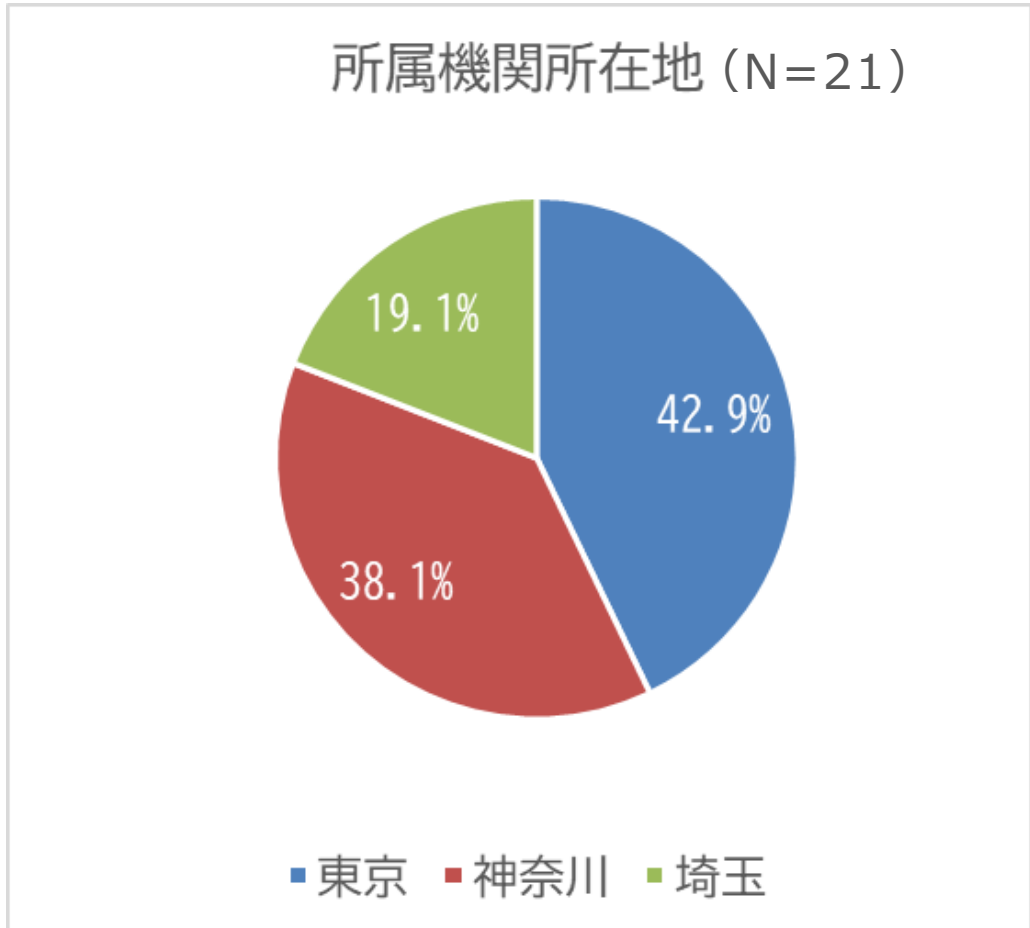
* 本人配布数は体験参加者数と同じ。

	東京	埼玉	神奈川	合計
伴走支援者が回答したケース数	16	5	9	30

伴走支援者 調査

【回答者の概要】

所属機関の所在地と種類



【支援体制】

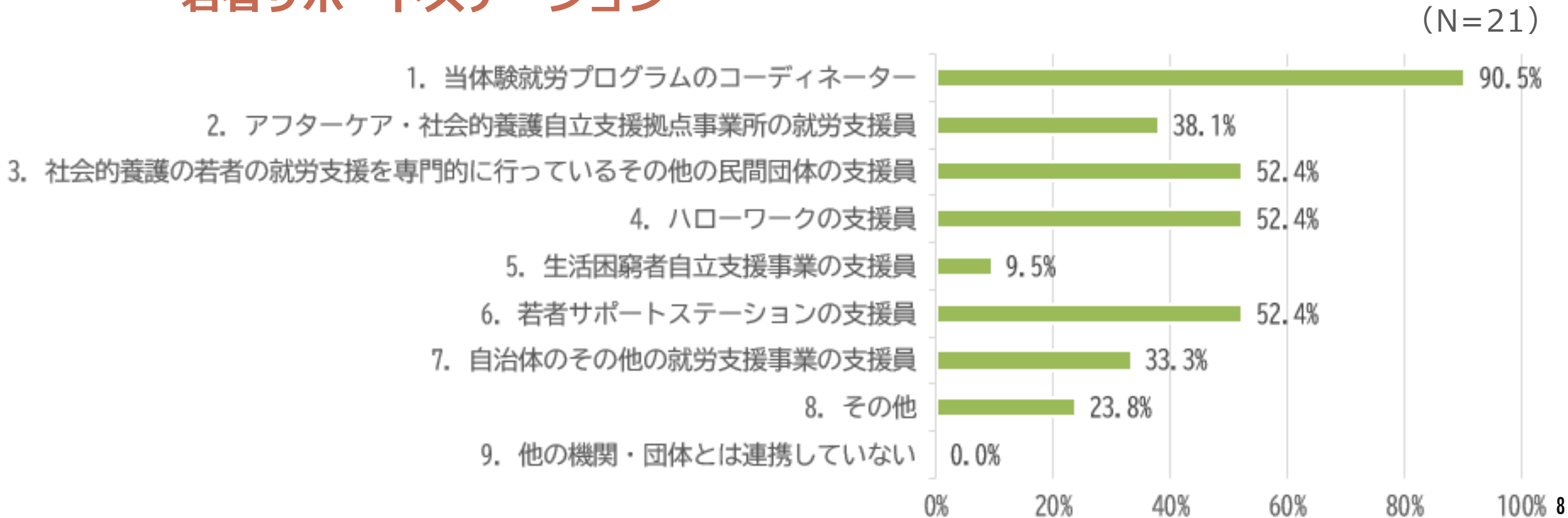
- 就労支援を専任とする職員がいるのは3割にとどまる
- 他の業務と兼任で就労支援をしている職員がほとんど
- 就労支援専任職員はなく、兼任職員が1人の施設 3カ所
- 就労支援担当職員・ボランティアがない施設 1カ所

	いない	1人	2人	3人	4人	5人以上	合計
就労支援を専任とする職員	15 71.4%	4 19.0%	1 4.8%	0 -	1 4.8%	0 -	21 100%
他の業務と兼任で就労支援を担当する職員	1 4.8%	4 19.0%	3 14.3%	6 28.6%	1 4.8%	6 28.6%	21 100%
就労支援を担当するボランティアスタッフ	20 95.2%	0 -	0 -	0 -	0 -	1 4.8%	21 100%
ホーム独自で契約するキャリアコンサルタント	20 95.2%	1 4.8%	0 -	0 -	0 -	0 -	21 100%

【地域の就労支援関係機関との連携状況】

当プログラムのコーディネーターの他、半数が下記と連携

- ・ 社会的養護の若者の就労支援を専門的に行っている団体
- ・ ハローワーク
- ・ 若者サポートステーション



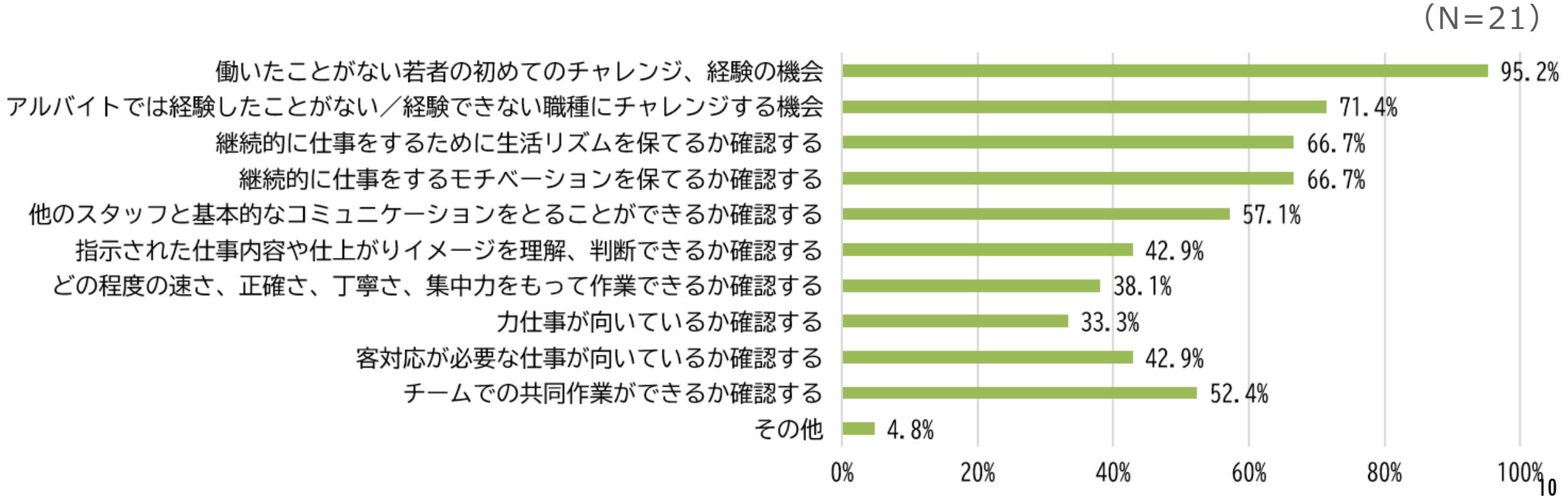
【他機関と連携したい就労支援の場面】

- 1. 見学・体験受け入れ先の開拓
 - 2. 定着しやすいマッチングに必要な求人先の詳細な情報
 - 3. キャリア相談
- などについて他の機関との連携が望まれている



【就労支援の一環として体験就労に期待すること】

1. はじめての仕事チャレンジ
2. アルバイトでは経験したことがない・できない職種にチャレンジ
3. 生活リズム、モチベーションを保てるか確認



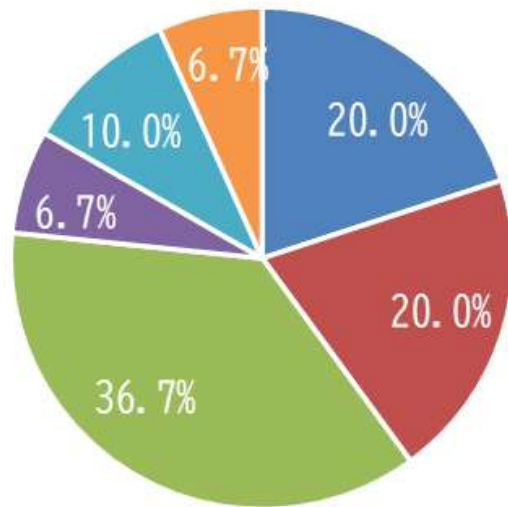
伴走支援者 調査

伴走支援者が支援した参加者ごとの
体験ケースについて

伴走支援者【体験した事業所の業種】

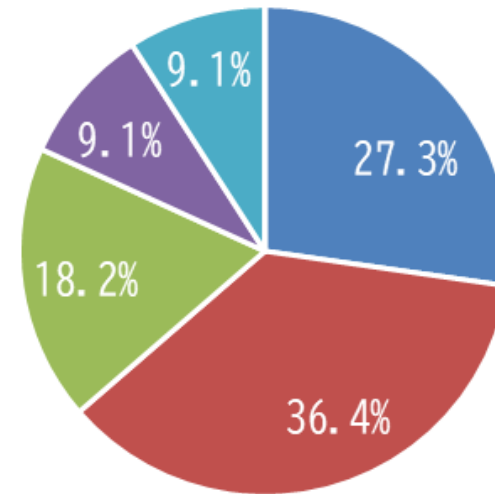
店舗、配送センター、福祉事業所が多い

1回目の事業所の業種(N=30)



- 福祉事業所
- 生協店舗
- カフェ
- 生協配送センター
- リサイクルショップ
- その他

2回目の事業所の業種(N=11)



- 福祉事業所
- 生協店舗
- カフェ
- 生協配送センター
- リサイクルショップ
- その他

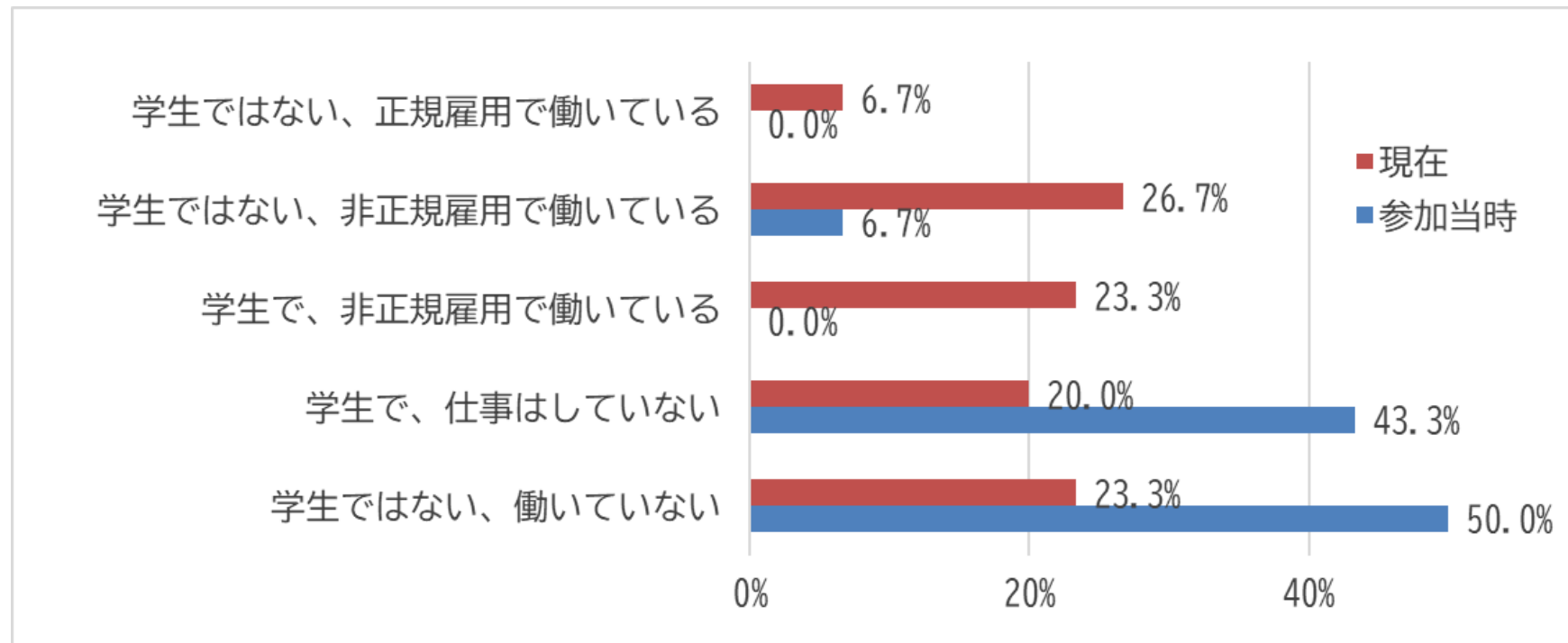
【参加者の就学・就労状況】

半数は働いていない時に体験しその後バイトへ

【参加当時】 働いていない若者が9割
 学生ではない若者が6割

【現在】 非正規雇用で働いている若者が6割
 正規雇用で働いている若者も

(N=30)



【参加の決め手】

コーディネーターによる丁寧な対応／生活補助費

参加を勧めた・決めた際、他の体験就労プログラムも検討した はい 1件 / いいえ 29件

【参加の決め手】 (N=30)

生活補助費の支給

10件

過去利用時に良かった

7件

- 現場の方が温かく迎えてくださる
- コーディネーターが丁寧な対応をしてくれた
- コーディネーターを信頼しているので安心

コーディネート

18件

- ホームで体験先を見つけられなかった。
- 本人の希望を聞いて、日程や場所、内容など、きめ細かなコーディネートをしてくれる
- プログラムの内容が明確

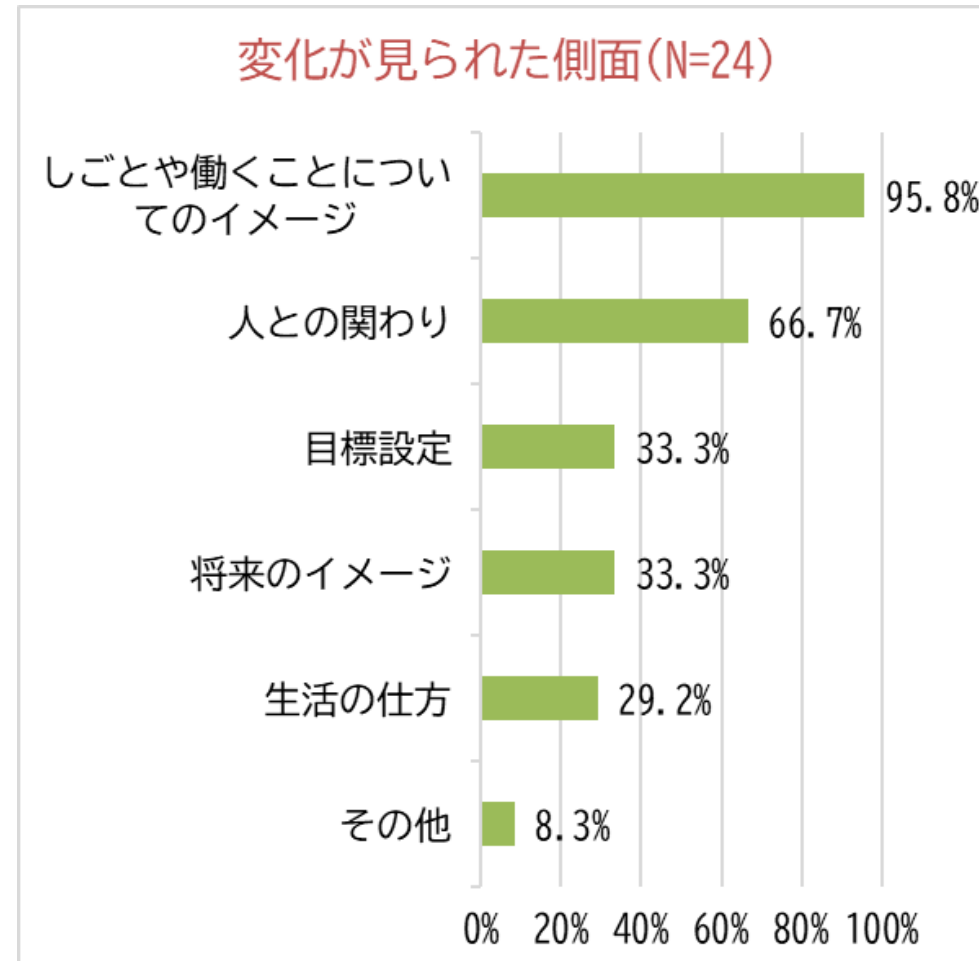
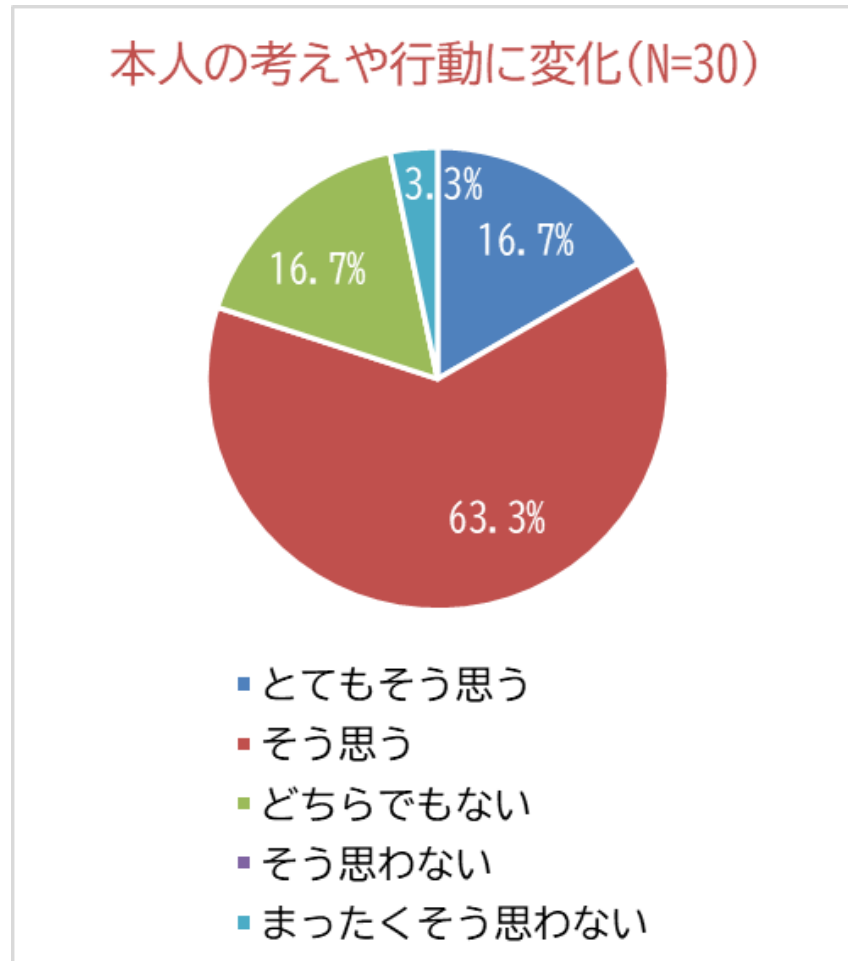
本人のキャリア模索・ チャレンジのニーズ

8件

- 進路に悩んでいる/求職活動がうまくいかないため、サポートを得て自分に合う仕事を見つけない
- どのような仕事につきたいか本人がイメージできるように
- 時間を持て余し、仕事体験に関心

【体験に参加して見られた本人の変化】

8割に変化が見られた



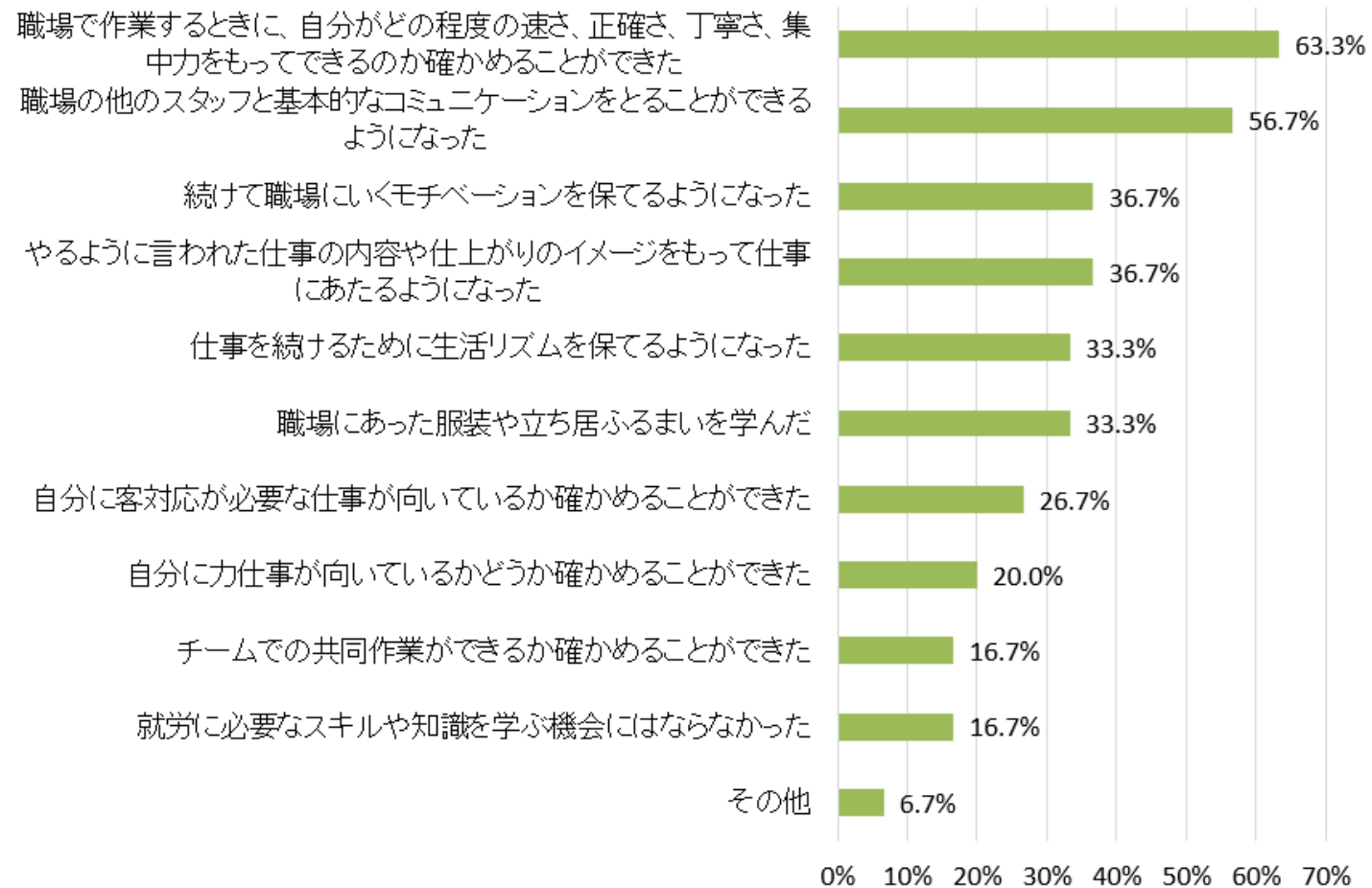
【体験に参加して見られた本人の変化】

- **自分の良さや課題に気づき、視野が広がった**ように感じます。
- 体験先で人と話したりして、**社会に認めてもらった感覚を得て自信**をつけていたようだ。
- **本人なりの計画を具体的に**することができたようです。
- 長い間就労していませんでしたが、体験を通して「働く」ことに自信がもて、**貯金や引越しといった目標**を話すようになりました。
- 就労には結びつかなかったが、体験後、**作業所に通うようになった**のは変化。定期的に通える場を持つことで社会的リハビリの意味もあったようだ。
- 生活を立て直すことができ、**体験先で現在も働く**ことができている。就労することで昼夜逆転を直すなど**生活リズムを崩さないような努力**が見られる。
- 漠然とやりたいと話していたが、専門職なので資格があることがわかり、資格取得のための訓練校に通い、初任者研修を受講し、**資格が取れた**。
- 変化は、すぐには現れなかったが、**半年後に地道に働くようになった**
- 就労経験が全くない児童が、働くという経験全般や就業環境（通勤時間など）の具体的なイメージをもち、**就職先を選定する基準をもてるようになった**。

【参加して学んだ就労に必要なスキル・知識】

職場で作業するときの自分の力を確認 6割強 職場での基本的なコミュニケーション 6割弱

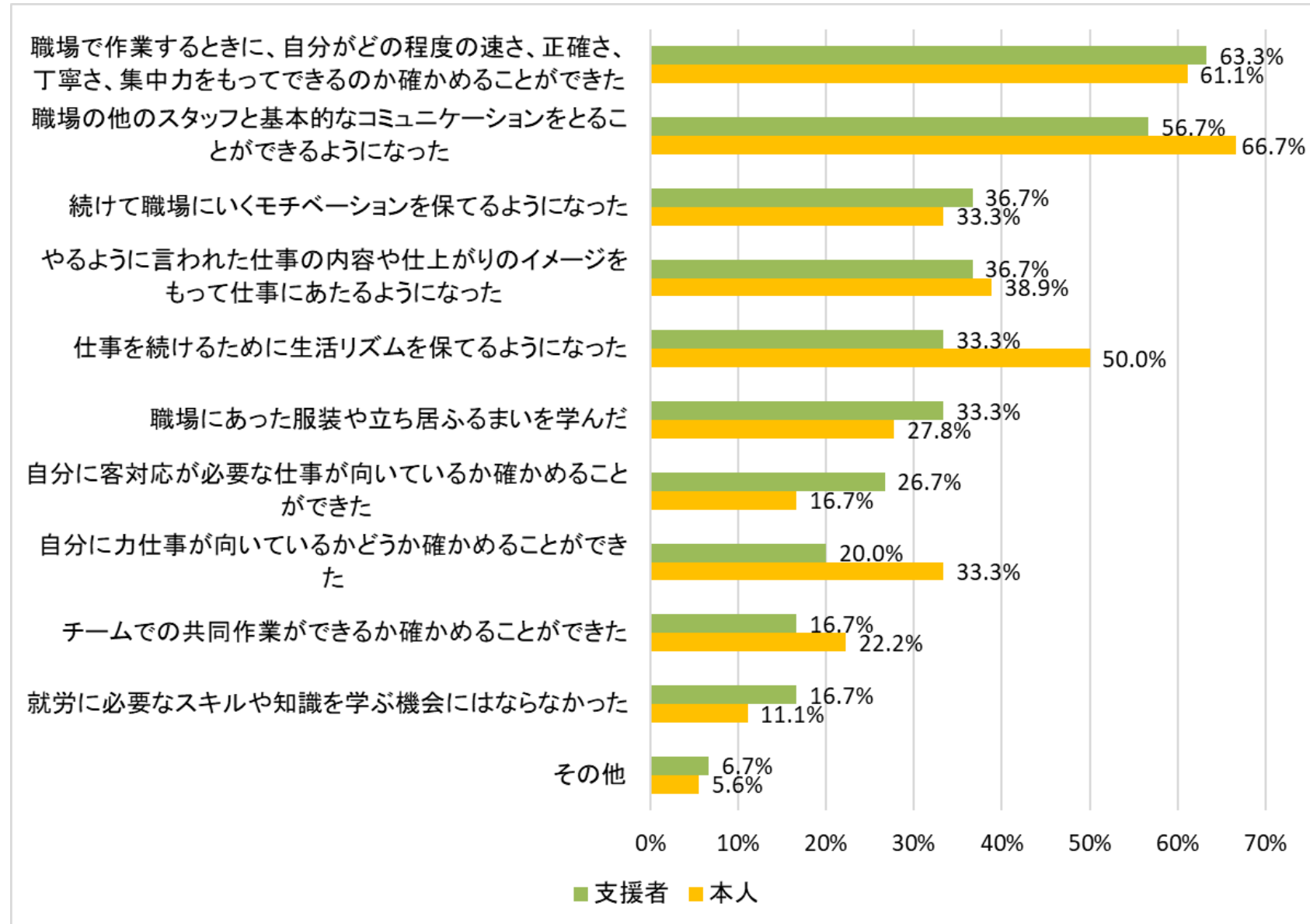
当プログラムへの参加を通して、就労に必要なスキルや知識を学ぶことができましたか。
(あてはまるもの全てにチェック)
(N=30)



学びの手ごたえは支援者と本人でやや異なる

当プログラムへの参加を通して、就労に必要なスキルや知識を学ぶことができましたか。
 (あてはまるもの全てにチェック)

支援者 (N=30)
 本人 (N=18)



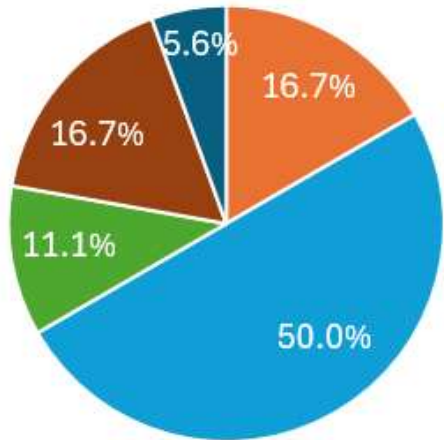
本人調査

【回答者の概要】

回答者の7割が10代後半

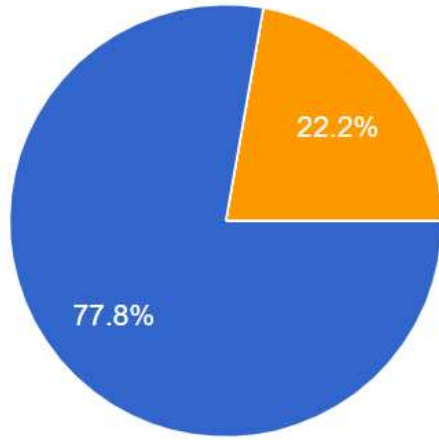
(N=18)

現在の年齢



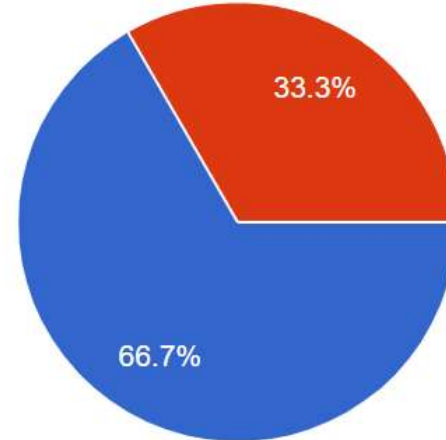
- 15～17才
- 18～19才
- 20～25才
- 26～29才
- 30才以上

現在住んでいる場所



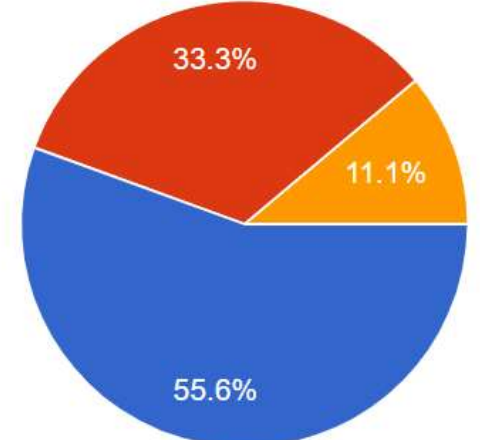
- 自立援助ホーム
- 里親宅
- アパート

参加した際の伴走支援者



- 自立援助ホームの方
- アフターケア事業所・社会的養護自立支援拠点事業所の方
- フォスタリング機関の方

体験した事業所のエリア

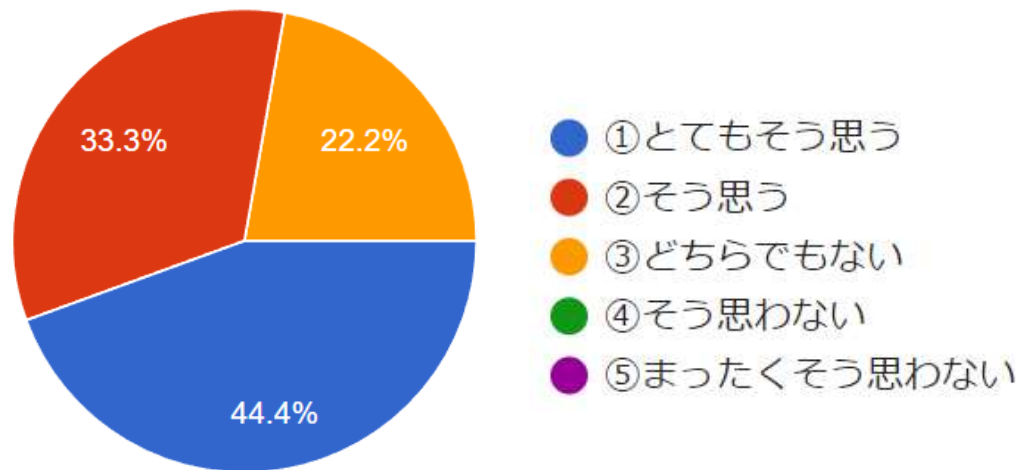


- 東京
- 神奈川
- 埼玉

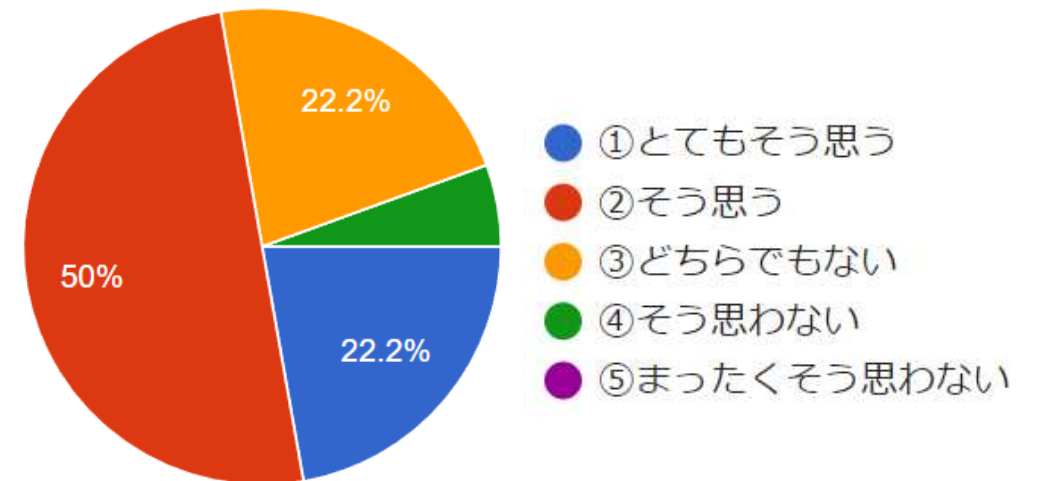
【体験就労をとおしての自己理解・自信】

8割が自己理解、7割が自信に

首都圏若サポの体験就労への参加をとおして、自分に合った仕事を見つけるために、自分の得意なこと、苦手なこと、チャレンジしたいことを考えることができましたか。(N=18)



体験就労プログラムに参加したことで、自信がついた。(N=18)

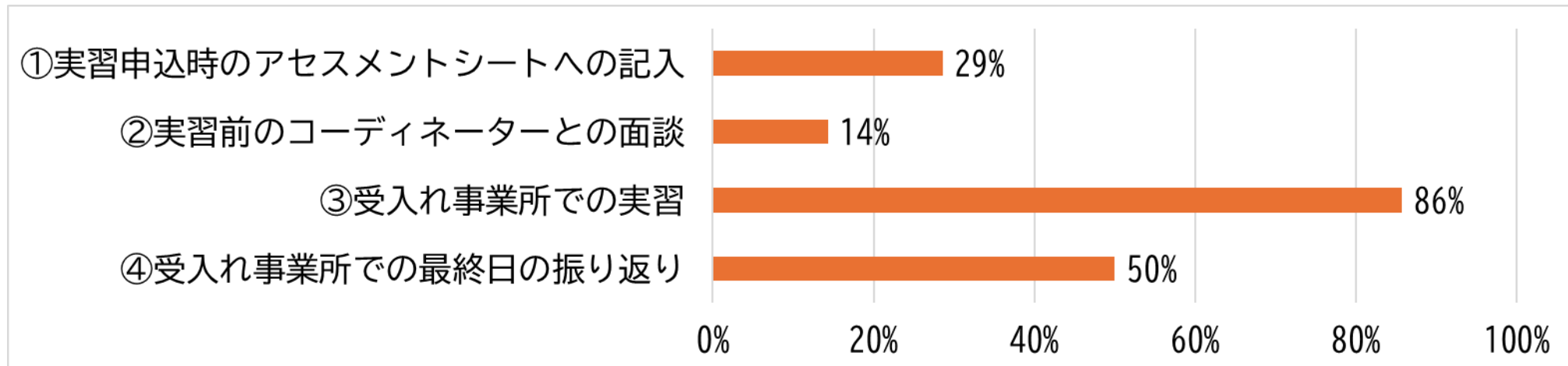


【自己理解が進んだ場面】

体験先での実習と最終日の振り返り

自分に合った仕事を見つけるために、自分の得意なこと、苦手なこと、チャレンジしたいことを考えることができた方
(①とてもそう思う、②そう思うと答えた方)

特にどの場面で思いましたか？ (N=14)



【体験就労をとおしての自信】

自分の得意分野を見つけた
やりたい仕事を知った上で、よりやりたい気持ちに

体験就労プログラムに参加したことで、自信がついた。との問いに

【①②を選んだ方】

自信がついたことで、どのような変化がありましたか？

- 飲食店関係の仕事しかしてこなかったため、自分はどんな仕事
が合うのかが分からなかったので、今回のように様々な職業に触
れ自分の得意分野の欠片を見つけることができたと感じた。
- 自分のやりたい仕事を知った上でよりやりたいと思えた
- 色々な事に積極的に取り組むことができた
- 作業所に通うきっかけになった。
- アルバイトを始めることが出来た
- コミュニケーション力
- 少しは前向きになれた
- 可能性と多少のやる気と自信の変化。

【③④⑤を選んだ方】

なぜそのように思いましたか？

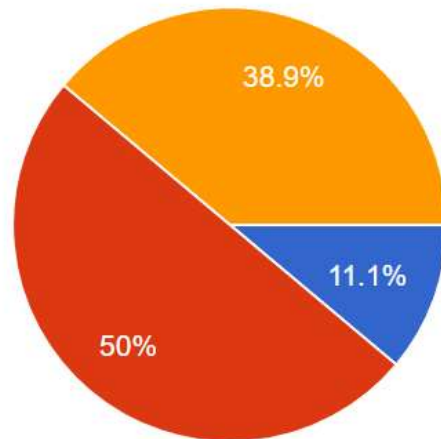
- 出来ないことが多かったから。
- 仕事への意欲は上がったものの、
精神的部分でダウンしてしまい仕事
が続けられなかったから。
- やったことがあるから



【参加したことによる変化】

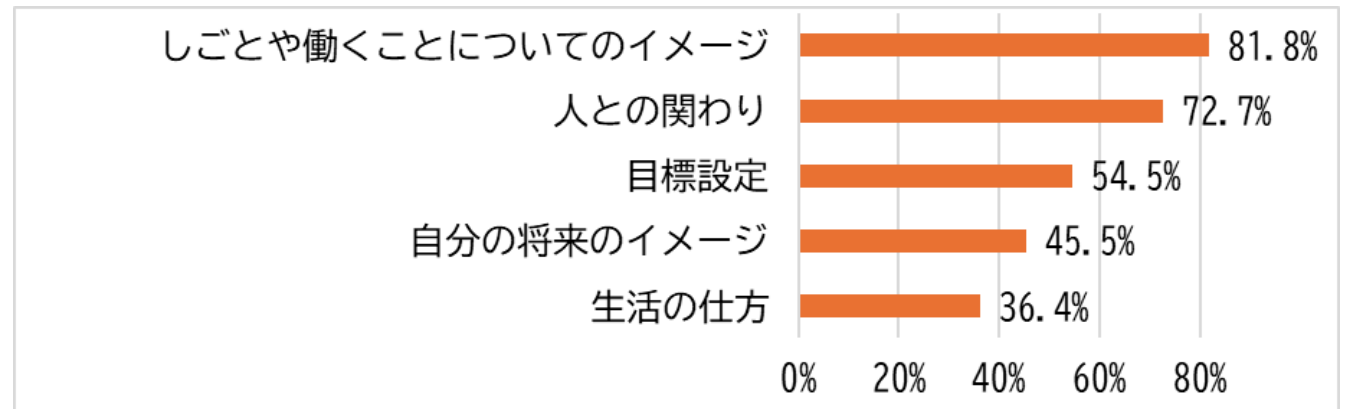
6割が考えや行動に変化

体験就労プログラムに参加したことで、あなたの考えや行動に変化はありましたか？ (N=18)



- ①とてもそう思う
- ②そう思う
- ③どちらでもない
- ④そう思わない
- ⑤まったくそう思わない

【①②を選んだ方】
どのようなことについて変化がありましたか？ (N=11)



体験就労を通して変わったこと

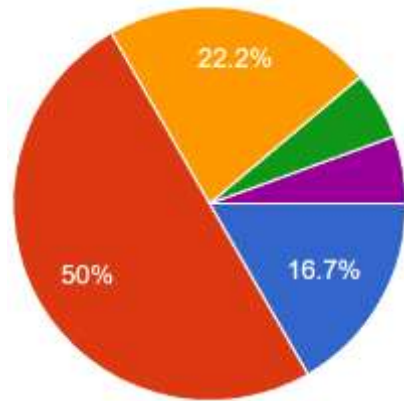
【①②を選んだ方】どのように変わりましたか？

- 1日の生活スケジュールを見直すきっかけになった。
- 将来の生活の仕方について具体的にイメージをつけるようになった
- 目標と今後の生活イメージと理想ができた。
- 対人関係の仕事への向き合い方を考えるきっかけとなりました。また、日常生活で高齢の方々へ視線が向くようになりました。
- 自分あまり人と接するのが得意な方ではなかったのですが、体験就労を通し自分に似た考えの人や真逆の考えの人等と会話をする機会が増えたので、色々な見方をできる様に、更に人との接し方がだいぶ分かるように変わったと感じました。
- 前向きに考えられるようになった
- じしんがもてた

【おすすめ度】

他の人にも勧める7割 アルバイトでは経験できない職種・業種に チャレンジできる

当プログラムへの参加を他の人にもすすめますか？（N=18）



- ①強くすすめたい
- ②すすめたい
- ③どちらともいえない
- ④あまりすすめない
- ⑤まったくすすめない

おすすめポイント（N=18）



より良いプログラムに向けて

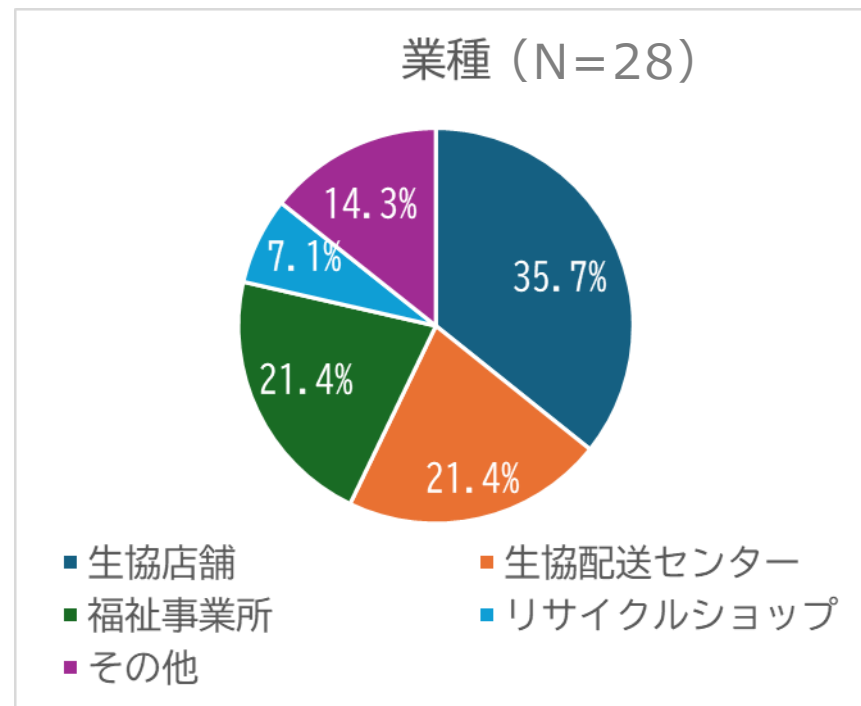
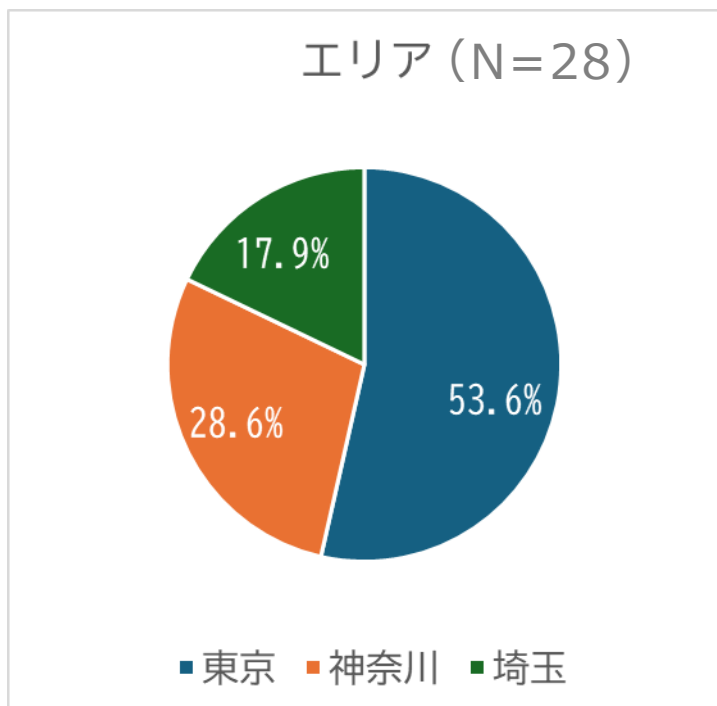
改善した方がよい点があれば教えてください。

- **色々な業種**でやってみたかったり、**毎年参加できる**ようなプログラム出会ってほしい。
- 一回体験して終わるより、回数をこなして自身ついたりすると思うので短期で経過を見るより**長期に渡り定着するようなプログラム**であってほしい。

受入れ事業所 調査

【回答者の概要】

事業所のエリアと業種

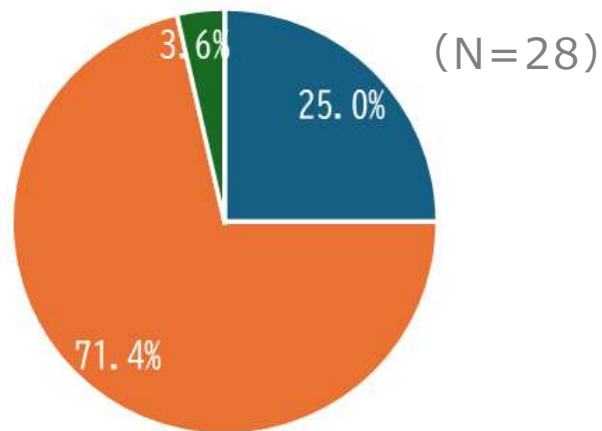


実習生にとって良かった96%

「とてもそう思う」「そう思う」理由（抜粋）

- 配送を通じて組合員、配送メンバーと**コミュニケーションが取れ、日に日に明るくなっていった。**
- 日を追うごとに声のでるようになったり、表情が柔らかくなる**など変化がみられました。また、ご利用者様との会話なども糧になったのではないかと思います。
- 単純に仕事を体験**するという経験と、**目標を持って仕事**を行い、**目標を達成**できたことが**本人の成長**につながったと思います。
- 保育士になりたいと思っている子が、具体的にその業種を体験することで、**将来について考えるきっかけ**になっていた。
- 多様な人がともに働く働き方**があることを知ってもらえた

実習生にとって、
良かったと思うことがある

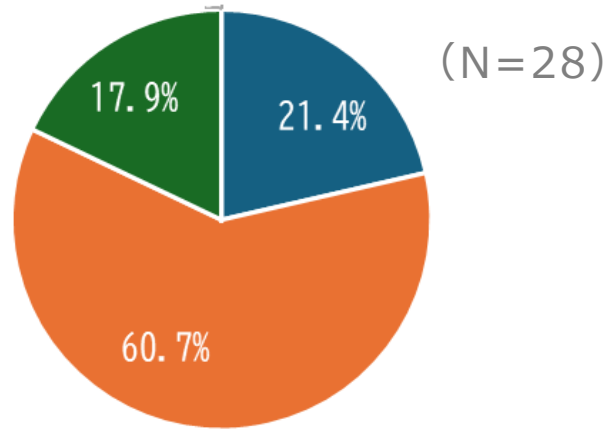


- とてもそう思う
- そう思う
- どちらでもない
- そう思わない
- まったくそう思わない

受入れ担当者にとって良かった82%

「とてもそう思う」「そう思う」理由（抜粋）

事業所受入れ担当職員にとって
良かったと思うことがある



- とてもそう思う
- そう思う
- どちらでもない
- そう思わない
- まったくそう思わない

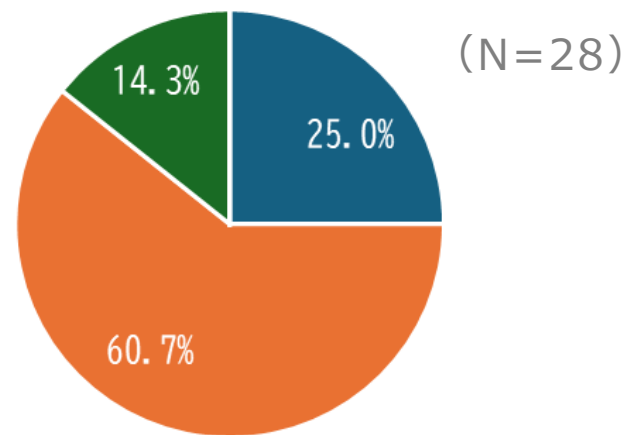
- 今回初めて受け入れ、対応が難しかった。どんな事情で参加するのであれ、**実習生個人としっかり向きあって受け入れることが大事だ**ということを学べた。
- **人に教える、伝える、コミュニケーションが必要。次世代や異世代と関わるチャンスだし、考え方の違い、世代文化の違いの交流**が生まれる。
- **自身の振り返りや伝え方を学ぶ**事が出来た。
- **自分たちの仕事を改めて見直す**機会となった
- **人の成長に貢献**できるということが自分自身にとってもプラスになった
- **若い人の感覚や気持ちを知れた事**
- **メンバー皆で協力して迎え入れられた事は、とてもプラス**になった
- 若い就労体験者がいることで、**メンバーが積極的に仕事に取り組むきっかけ**になる

事業所全体にとって良かった 86%

「とてもそう思う」「そう思う」理由（抜粋）

- 「この事業所で働きたい」と好印象を持ってくれた。今後の就労で職員の世代構成の幅が広がり、多様な価値観を共有する機会に。
- 労働力としてプラス1名になるのは助かりました。手が回っていなかった軽作業を実習生に任せられた。
- 若い力が入る事でとても助かりました。
- 高齢者の施設。利用者が若い人と交流することができた。
- 一生懸命取り組む姿は、他の職員に良い影響を与えてたと思う。
- 多様な人材と共に働くことで自組織メンバーの育成にもなりました。そして良い組織風土の醸成にもつながると思いました。
- ①リーダー以外でも就労体験の様子を見て教えてあげることで、積極的に仕事に向き合うことができると思うから。
②積極的に関わり、フロアの雰囲気も良くなる。
- 一緒に働くメンバーとしてマンネリ化していた雰囲気も変わり明るくなった

事業所全体にとって良かったと思うことがある



- とてもそう思う
- そう思う
- どちらでもない
- そう思わない
- まったくそう思わない

より良いプログラムに向けて

- **研修前、反省会など**きちんとサポートされている。今までのように事前の打ち合わせなどコミュニケーションを多く取り合うこと。
- 体験するにあたって、**どんなことを習得したいのか**をある程度明確にして臨んでいただけると良い。**就労体験者と受入れ側との3者**で具体的な獲得目標の検討と共有
- **就労体験に来る人の状況をもう少し詳しく知りたかった。**本人がいる前では聞きづらいこともあるので、事前打ち合わせに工夫が必要。
- **体験就労を受け入れる側への支援**もあると、そのまま働くことを引き受けて人手不足も解消する。団体側も助ければ、働き先もスムーズ、人手が足りることにより、業務内容もレベルアップできる。
- **しっかり寄り添う時間が必要**となる為、受け入れるセンターは中規模、大規模センターが良い。**孤立させないような組み立てが必要。**
- 1回の実習時間が2時間から設定があると良い。**長い時間やっってもらって作業内容を探すのが大変。**
- 就労体験の時間帯が**5時間だったが、全体を知るには短い**
- 実習期間を5日間ではなく、**例えば3日間など短く**することで、より多くの実習先が探せるのでは。
- 短い期間が多かったなので、**細く長く就労**出来るとこちらも助かります。

【まとめ】

調査から見える
当体験就労プログラムの意義

調査から見える当体験就労プログラムの意義

半数がアルバイトや正規雇用の仕事に

資格を取得した人も

体験者の8割が
自分の得意なこと、苦手なこと、チャ
レンジしたいことを考えるように

体験者の7割が
自信をつけた

しごとや働くこと
についてのイメ
ージをつかめた

自分の得意分野を見つけたり、
やりたい仕事を知った上で、
よりやりたい気持ちに

1日の生活スケジュールを見直したり、将来の生活の仕方をイメージしたり、
計画や目標を持てるように

人との接し方が
分かるように

協同組織での
就労体験

実習先の方が丁寧に仕事を
教えてくれる

アルバイトでは経験できな
い職種・業種にチャレンジ

生活補助費の支給は、本
人のモチベーションに

コーディネーターが本人の希望や状況などを丁寧に聞き取り、受入れ事業所との間に入って体験内容、日程、場所などをきめ細かく調整していることが、本人、伴走支援者、受入れ事業所の安心感に
コーディネーターは当プログラムの要

伴走支援者の事業所（社会的養護自立支援）は就労支援体制が十分でないところが多く、とくに見学・体験の受け入れ先開拓などについて他機関との連携ニーズが大きい。伴走支援者と企業をつなぐ中間支援のニーズ。

本人：働いたことがなく仕事のイメージをもてない。バイトでうまくいかず自信をなくしている。

コーディネーターによる考察

A (東京)

- プログラムの利用には、支援者が若者にプログラムを案内するケースがほとんどだと思うが、参加の決め手として「コーディネーターの存在」「生活補助費の支給」が多数上がっており、これが他の支援機関との違いとも考えられる。コーディネーターはどの地域も協同組合の働き方、受入先情報に精通しており、面談の際に体験希望者の特性を見た上でマッチングをしていくので、そういったことから、支援者としては安心して体験を子どもに進めることができると思われる。改めて、コーディネーターの役割と重要性を再確認し、身が引き締まる思いがした。
- また、生活補助費があるということで、なかなか腰をあげない子もチャレンジする機会につながっているので、そういった点でも体験者にとって有効なプログラムとなっていることを確認できた。
- 体験後、考えや行動に変化が見られたと、支援者、体験者共に答えている方が多かったが、これは何より協同組織である受け入れ先の理解ある対応が、体験をより良いものに行っていると言える。受入前のレクチャーや受け入れの相談をする際も、ほぼすべてのところが業務が忙しい中でもできるだけ協力したいという意思を示してくださり、また、実際受入れたことも学びや理解につながったと感じてもらえているのが大変ありがたい。
- 受入先を増やしていくことはまだできることなので、本課題の理解者を増やすという視点でも、今後も受け入れ先開拓を進めていきたい。
- 本プログラムの面談、顔合わせ、振り返りは支援者、受入先、コーディネーターにとっては時間的負担が大きいものではあるが、体験就労を体験者にとって意味のあるものにするためにはとても重要なプロセスであると感じた。

コーディネーターによる考察

B (神奈川)

- 当団体では2005年からワークス・コレクティブや生活クラブのセンターなどで職場体験のコーディネート事業をしてきた。その経験から職場体験が本人の自信ややる気に大きな力をもっていることは実感している。若サポの実習生もそういう感想を持つ人が多く、うれしく思っている。今まで当団体が対象としてきた人たちは、すぐに求職活動ができない長期のひきこもりの方達や病気などで長期間働いていない人達なので、週に2回、1回2時間程度の実習からスタートする。中には週に1回、1回1時間の体験から始める人もいる。実習を受け入れる事業所側も、2時間程度の作業の切り出しには慣れているが、若サポの実習は、5時間以上という条件があるため、受け入れに慣れている神奈川のワークス・コレクティブや生活クラブでさえ「5時間の作業はない」と断わられることも多い。
- 今まで19人の若者をコーディネートしてきて、ほとんどの若者が5時間の実習をそつなくこなしているが、中には5時間実習する体力・気力がない子も見受けられた。
- 今回のアンケートを見ていると、もう少し長期でやりたいという声が出ている。ホームの若者たちは定時制の高校などに通っている人も多く、5時間ではなく、2時間の実習であれば、平日学校に通う前、帰ってきたあとに実習ができるということも考えられる。

コーディネーターによる考察

c (埼玉)

- 体験就労にお申し込みされる方の多くは、仕事を経験したことがない、今まで仕事が続かなかった、など仕事に対するハードルが非常に高いため、丁寧な指導や人間関係の形成作りが大切になっていくと考える。
- 当団体独自で行っている体験就労（一般企業）は、就労前提であり、企業と体験者、双方の見極め機関として、実施しているため、ある程度のマナーや仕事に対する姿勢も重要となってくるため、体験のハードルが高い。
それに比べ、協同組合で実施する体験就労プログラムは、①「体験のみ」を選択できる②「働くくまずは体験してみる」③「生活補助費（3万円）」がもらえるといった点で、気軽に体験（挑戦）しやすくなっていると感じる。
- また、一般企業での体験就労と違う点は、現場の理解度だと感じる。
一般企業での場合、社長が理解していたとしても現場は理解していない・納得していないということが多々あり、通常の就労とあまり変わらない。それに比べ、協同組合は、事業所ごとに社会的養護やプログラムの概要を理解しており、和やかな雰囲気では本人のペースに合わせ、少しずつしごと（体験内容）をさせてくれている。
- 体験就労プログラムに参加した若者たちの8割は自己理解、7割は自信がついたという結果が出ている通り、体験後の感想として、「大変だった」よりも「楽しかった」「自信がついた」「やりたい仕事を見つけれられた」といったポジティブな意見が多かった。
やはり、安心して体験（チャレンジ）できる環境だからこそ、やりがいや新しい発見を見出すことができるのだと感じる。

コーディネーターによる考察

D (東京)

- アンケートでは実習とともに振り返り面談の機会が自己理解や自信の獲得につながっているとある。振り返り面談は体験を通して、できたこと、できなかったこと、おもしろかったこと、楽しかったこと、などを聞いて自身の興味、関心、持っている能力に気づいてもらい、明確に意識付けをするキャリアカウンセリング的な場だととらえている。体験後も、キャリアカウンセリングの機会が継続的にあり、ここでの気づきを次のステップに生かしていく仕組みがあれば就労につながる可能性も高まっていくだろう。さらに就労後の仕事がらみの問題もキャリアカウンセラーが相談にのり、継続就労を支援する体制もキャリア支援において重要だと感じる。
- 受入事業所側も様々な成果を感じてくれているのは嬉しいことだ。さらに言えば、体験実習の機会によって社会問題を知り、自分ごととしてとらえ、組織として、個人として何ができるか、を考えるきっかけになればいいと感じてる。それには、事前の学習会などが重要だと思うが、事業所側の時間確保が課題となる。
- アセスメントシートやインテークの段階では経験したバイト先で、コミュニケーションが苦手、質問ができない、という方でも体験実習ではわからないことを聞けるし、コミュニケーションも普通に取れ、特に問題ない、というケースが多い。バイト経験は飲食など忙しい職場が多く、丁寧な指導を受け、遠慮なく質問できる、など落ち着いて業務に取り組める雰囲気が多く、コミュニケーションに対して苦手意識を持ってしまっているだろう。当プログラムの事業所では丁寧に指導し、質問をする雰囲気も作ってくれているので安心して仕事に臨め、気持ちも楽にコミュニケーションができ自分の仕事ぶりにも目がいくのだろう。即戦力を求めず、人を丁寧にゆっくり育てていこう、という思いが根底にある協同組合の仕事場だからこそ体験を通して、自信をつけ、自分の能力や関心などにもむきあえるのだと思う。この体験を通して8割の方が前向きな変化があった、ということはたやすく具体的に就労につながらずとも、初めて外に踏み出そうとするとき、温かく見守られ指導を受けられる場での体験はその後のステップにとっても重要であり、その意味でこのプログラムの特徴である協同組合での体験はキーポイントなのだと感じる。